



入園から2か月がたち、それぞれのペースで保育園の生活に慣れてきている子ども達。
最初は不安から泣いていることも多く、食事や睡眠もままならず保護者の方々も心配な気持ちでいっぱいだったかと思います。
少しずつ保育園のお部屋や大人に慣れて、「ここは安心できる場所なんだ」と認識し始めてくれて、自由に動き回りいろいろな表情を見せてくれるようになりました。
日に日に変化する子どもたちの姿を、保護者の方と楽しく共有していけたらいいなと思います☺

ひと声かけて 丁寧に

保護者会でも少しお話しさせていただいた「包括的性教育」
もう少し具体的に、保育園での取り組みなどお伝えさせて
いただきたいと思います。

子どもたちひとりひとりが「自分を大切にできる力」を身につけていけるよう、私たちは日々の関わりの中で、子どもの思いや気持ちに丁寧に寄り添うことを大切にしています。
その中で、どのような言葉をかけ、どのように関わっていくことが子どもたちの安心や自信につながるのかを考えながら保育にあたっています。

子どもたちは、大人から「大切にされる」経験を通して、安心感や愛着を育みます。
では「大切にされる」とはどんなことで感じられるのでしょうか。
保育園では、まず子どもに触れるときに「ひと声かける」ということを大切にしています。
「鼻水拭いてもいい?」「抱っこしてもいい?」と、体に触れる時には、赤ちゃんであっても必ず声をかけてから行っています。
ひと声かけて丁寧に触れられた経験を重ねた子どもたちは「自分は大切にされている」と感じながら成長し、やがては「相手を大切にできる」ころを育んでいきます。
子どもに触れるときにひと声かける、それが性教育の第一歩であると教えてもらいました。

「赤ちゃんだからわからない」ではなく、ひとりの人間として尊重し、丁寧な関わりの中で自分を大切にできる気持ちを育んでほしいと願っています。

